



校長室より



令和 7 年 8 月 21 日

自分らしく生きる 豊かに生きる

No.18

連続テレビ小説「あんぱん」より



子どもが好きなキャラクターの一つに「アンパンマン」があります。私の孫たちも大好きです。アンパンマンを生み出した漫画家やなせたかしさんの人生を描いているテレビ番組を観ました。やなせたかしさんが「アンパンマン」にたどり着くまで、デザイナーの仕事をしたり、舞台美術制作や放送作家などの仕事もしたりします。苦悩の中で多くの人との出会いもあり、詩人として絵本作家としても知られることになります。

私が注目したのは、1961 年にやなせたかしさんが作詞した『手のひらを太陽に』です。教科書に載るくらい有名な曲ですよ。

職員や児童生徒にも話をしたことがあります。私は、みはま支援学校の第一期生です。中学 2 年生の一年間だけでしたが、転籍をして病気を治しながらみはまで学びました。昭和 54 年に開校した本校ですが、当時は、体育館やプールは無く、病院の敷地を切り開いて建てられた二階建ての校舎のみでした。高等部ありませんでした。

そして、校歌もまだなくて、始業式や卒業式、全校集会などで歌っていたのが、『手のひらを太陽に』でした。「ぼくらはみんな生きている 生きているから歌うんだ・・・てのひらを太陽に すかしてみれば まっかに流れる ぼくの血潮・・・」。当時は、どうしてこの歌を歌うのかなと思っていたのですが、全ての生きとし生けるものへの応援歌として、先人が選曲されたのでしょうか。アンパンマンとみはま支援学校がこんなところでつながっているのだと思いました。

現在のみはま支援学校の校歌は、「昭和 57 年 1 月 23 日に校章と共に決定された」と創立 5 周年記念誌に記載されています。昭和 54 年の開校までにも 10 年余り、先人たちの苦労があったことも記されています。自然豊かなこの地で、病気に負けず、しっかり成長発達してほしいという願いでつくられた開校の精神、受け継いでいかななくてははいけません。

やなせたかしさんが「アンパンマン」の中に描き続けたテーマ・ひっくり返らない正義、それは、おなかをすかせて困っている人がいたら、一切れのパンを届けてあげることなのだと思います。

終戦から 80 年を迎えた日本ですが、世界では今なお紛争・戦争で困っている人たちが多くいます。私たちに何ができるのか考えていきましょう。

